

大間原子力発電所に係る海成段丘面調査の追加実施について

平成 23 年 10 月 11 日

電源開発株式会社

当社は、大間原子力発電所に関し、原子炉設置許可（平成 20 年 4 月）取得以降も継続して、耐震安全性に係る情報を収集するとともに、必要に応じて地質調査等によるデータの充実を図り、大間原子力発電所の耐震安全性の確認を通じて皆様に安心していただけるよう努めております^(※1)。

今般、最新の研究動向を踏まえ、より高精度に海成段丘面旧汀線位置^(※2)の高度を確認するため、海成段丘面調査の追加実施をすることとしましたので、お知らせいたします。

(※1) 上記の取組みの一環として、これまでに海成段丘面調査、空中重力探査及び海上音波探査を行い（平成 21 年 11 月 2 日お知らせ済み）、現在、調査結果のとりまとめを行っているところであります。

(※2) 海成段丘面旧汀線位置とは、現在は陸化している海成段丘が形成された当時の海岸線位置のことを言います。

○海成段丘面調査(追加実施)

- ・ 測量、ボーリング調査等による基礎データの取得
- ・ 平成 23 年 10 月から、下北半島西部で実施予定

以上

【添付資料】

- ・ 海成段丘面調査の追加実施について

海成段丘面調査の追加実施について

大間原子力発電所に係る原子炉設置許可（平成 20 年 4 月）取得後の平成 22 年 3 月～4 月にかけて行った海成段丘面調査は、海成段丘面の形成年代を把握し、海成段丘面の高度分布を示すことで、それが形成された当時から現在までの隆起量を把握することを目的として、海成段丘面中央付近^{※1}で調査を行いました。

海成段丘面が形成された当時から現在までの隆起量を示す海成段丘面旧汀線位置^{※2}の高度については、海成段丘面の中央付近の調査結果を基に推定することにより、調査結果を分析しています。

上記過程において、最新の研究動向を踏まえると、より高精度に海成段丘面旧汀線位置の高度を確認することが望ましいと考えられることから、今般、旧汀線位置高度のデータを取得するために、海成段丘面の山側に在る旧汀線位置付近において、1 箇所当たり 3 本程度のボーリング調査^{※3}を行い直接データを取得することとしました。

※1) 図-1 における、「前回調査の実施位置」を参照のこと。

※2) 旧汀線位置とは、現在は陸化している海成段丘が形成された当時の海岸線位置のことを言い、図-1 の海成砂層上面と基盤岩との交点に相当します。

※3) 図-1 における、「今回のボーリング実施位置」を参照のこと。

○海成段丘面調査の追加実施計画（概要）

(1) 調査目的

海成段丘面の山側において、ボーリング等により旧汀線位置を確認するデータを取得します。

(2) 調査項目

- ・GPS 測量による位置データ取得
- ・ボーリング調査 図-2 参照
- ・火山灰分析

(3) 調査範囲

図-3 に示す範囲のうち 20 箇所程度（ボーリング調査は 1 箇所当たり 3 本程度）

(4) 現地調査開始時期

平成 23 年 10 月から（予定）

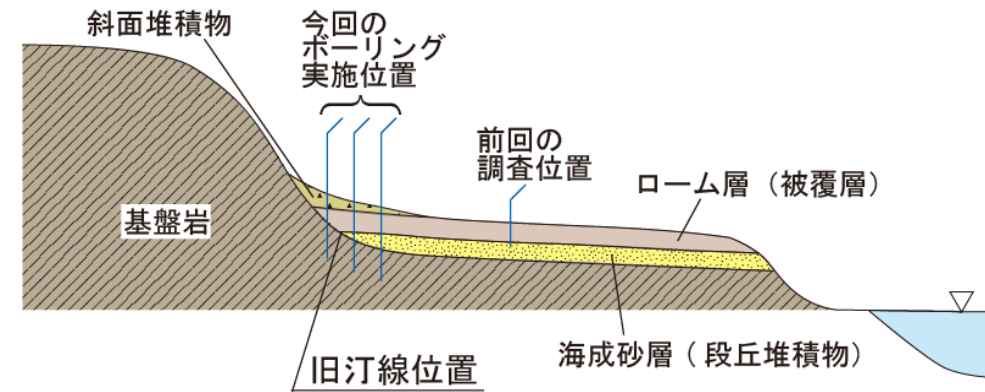


図-1 海成段丘面調査概念図



図-2 ボーリング調査

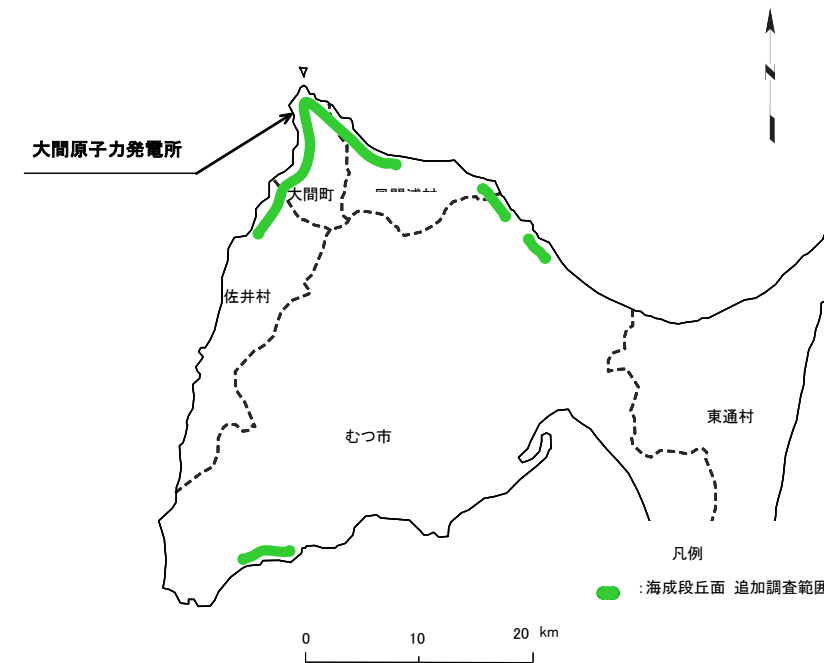


図-3 調査範囲